

2022年度神学校週間奨励

「今こそバプテストのビジョンを新たに」

東京バプテスト神学校 校長 坂元幸子



東京バプテスト神学校では教役者（牧師・主事）の召命を受けた専攻科生を「神学生」と位置づけ奨学金受給の対象者と定めています。神学生たちは奨学金によって財政的な助けをいただくと共に、全国壮年会連合を通して全国の諸教会に祈られていることを具体的に実感するのです。現在全国には60名を越える「東バブ」出身の教役者が主の教会に仕えています。連盟全体の教役者の約三分の一にあたります。西南学院神学部、九州バプテスト神学校と共に「東バブ」が日本バプテスト連盟の伝道者養成に仕える神学校として皆さまに支えられていることを心から感謝いたします。

今年の1月、第67回連盟定期総会を経て機構改革がいよいよ動き出しました。「今、共にキリストを証するために～新たな『自立と協力』～各個教会・地域が主体となる協力伝道」が改革の主題です。「東バブ」はまさに諸教会と地域が主体の協力伝道の中で生み出されてきました。60年前の1962年、東京連合によって信徒伝道者養成のために「東京バプテスト福音宣教学院」が設立

され、その後教会の多様なミニストリーを担うビジョンのもとに「神学科・教会教育科・教会音楽科」の3科が設置されました。1986年には北関東・神奈川の二連合が加わって現在の「三連立」の形が整いました。このように「信徒奉仕者養成」と「教役者養成」が相互につながる教会形成は実にバプテストらしいことです。現在改定中の「伝道者養成の基本理念」にもバプテストが本質的な意味での「信徒の教会」であることが改めて確認されています。

「神は言われる。終わりの時に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、若者は幻を見、老人は夢を見る。」（使徒2：17）ペンテコステの日、ペトロはイエス・キリストの教会のビジョンを語りました。多様なすべての人びとがジェンダーや年代などの違いを超えて共につながり生かされる教会のビジョン、それこそが私たちバプテストが求める信仰者共同体の姿であり、神学教育の目的であることを今、新たに受け取り直したいと祈ります。

「献金の使途拡大を可能に！」（2022年度神学校週間にあたって）

全国壮年会連合副会長（神学校献金推進担当） 豊永義典（川崎バプテスト教会）

川崎バプテスト教会では、昨年5月約2年間の無牧師期間を経て第7代目の牧師を招聘することが出来、恵まれた一年を過ごすことが出来ました。コロナの感染拡大が繰り返すなか、牧師が教会員の一人ひとりと出会うまでにはかなりの時間を要しましたし、まだ安心してみんなが会堂に集まることは出来ていませんが、礼拝や祈禱会、教会学校にZOOMを活用することで、豊かな交わりと学びが拡大してきました。牧師と教会員が一緒になって教会形成に向き合うこの力を実感した一年でもありました。

さて2021年度も242教会・伝道所から1,588万余円の神学校献金を献げて頂きましたことに、心から厚く御礼申し上げます。

このところ西南学院大学神学部への入学者が減少し、必要な奨学金額も小さくなっていること、コロナによって壮年会の活動が制限されていることも相俟って、献金額は減少してきています。しかしこれからは神学校献金を「伝道者養成」のなかの神学生を支える事に限定せず、献身から学び、牧師としての働きまでに関わる様々な働きにも使えるようにしたい、と連盟理事会は希望しており、役員会でも検討を始めました。壮年会連合が奨学金制度の運営を委託されたこの20年間、皆さんの献げられた献金によって、制度は健全な運営を続けていくことが出来ましたし、ある程度の余裕があることも最近の確認で判りました。

しかし実際に献金の使途を拡大し、今後とも安定して制度を運営していくためには、皆さんの献金による協力が必要です。昨年度から献金目標額を2500万円に下げているのですが、早期に2000万円台に回復させるとともに、この目標額を達成したいと願っています。

神学校献金（神学生奨学金献金）の推移

年度	献金額
2012年度	2,228万円
2013年度	2,292万円
2014年度	2,284万円
2015年度	2,227万円
2016年度	2,235万円
2017年度	2,299万円
2018年度	1,986万円
2019年度	1,944万円
2020年度	1,603万円
2021年度	1,588万円

西南学院大学神学部及び東京・九州両バプテスト神学校で学ぶ神学生

神学生氏名（学年、よみ、推薦教会）

【西南学院大学神学部】 7名 <2022年度奨学金貸与者数：(6)名>

博士前期	原田 仰(1年・はらだ こう・平尾)、吉田 睿濫(1年・よしだ いえらむ・松本福音村)
学部神学コース	奥田 悟(3年・おくだ さとる・東京北)、長尾 基詩(2年・ながお きし・府中)、李 信範(1年・い しんぼむ・平岸)
特別研修生	石原 誠(いしはら まこと・常盤台)、湯川 洋久(ゆかわ ひろひさ・福岡城西)

【東京バプテスト神学校】 8名 <2022年度奨学金支給予定者数：4名(第1回連盟理事会にて決定)>

神学専攻科	井馬佐紀子(いま さきこ・仙川)、小平公憲(こだいら きみのり・横浜ニューライフ)、澤田猛(さわだ だけし・横浜JOY)、根塚幸雄(ねづか ゆきお・横須賀長沢)、小川 紀良(おがわ きよよし・逗子第一)、柏 雅之(かしわぎ まさゆき・経堂)、舩田 栄一(ふすだ えいいち・洋光台)
教会音楽専攻科	末永 美奈子(すえなが みなこ・同盟横浜南キリスト教会)

※休学(神学専攻科):岩瀬ミチ(いわせ みち・調布)

【九州バプテスト神学校】 9名 <2022年度奨学金支給予定者数：2名(第1回連盟理事会にて決定)>

専攻科	河野 正成(かわの まさなり・キリスト教佐賀新生)、松本 泰博(まつもと やすひろ・天草中央)、武宮 陽子(たけみや ようこ・大分) 西野 修平(にし の しゅうへい・北九州)、諸隈 秀臣(もろく まひでおみ・久留米荒木)、浅川 真(あさかわ まこと・香住ヶ丘)、李 守卿(い すぎよん・長崎)、今里 豪(いまさと つよし・折尾)、甲木 榮(かつき さかえ・自由ヶ丘)
-----	---

※九州バプテスト神学校では、2020年度から「牧師・主事コース」を「専攻科」へ名称変更しました。

【神学校献金(神学生奨学金献金)について】

【名称】神学校献金は従来から、西南学院大学神学部(以下西南神学部と略す)で学ぶ神学生(大学院生も含む)の授業料と生活費の一部を支えるため、奨学金という形で用いられてきました。2012年度から連立等の神学校で伝道者となるために学ぶ神学生ー東京バプテスト神学校(以下東バブと略す)の専攻科、九州バプテスト神学校(以下九バブと略す)の専攻科、にも用いられることになりました。そこで「神学校献金」の使途を明確にするため、2013年度より「神学校献金(神学生奨学金献金)」という名称に変更いたしました。

【内容】西南神学部神学生には、授業料等の費用として1種奨学金を貸与し、生活費補助として2種奨学金を給付しています。このうち1種奨学金については返還の義務があります。東バブと九バブの神学生には、授業料の一部を奨学金として支弁しており、こちらは両神学校の奨学金規程により返還の適否が判定されます。

【返還】西南神学部神学生の1種奨学金の返還については、2019年度の総会で返済条件が緩和される形で規程が改定されました。従来は卒業後4年以上伝道の業に従事し、卒業後10年以内に1種奨学金の2割以上返還した場合、その残額の返還は免除されました。2019年度在学学生からは、返済期間を15年に延ばすとともに、伝道の業への従事期間が2年以上、4年未満の場合でも、返済額は貸与額の3割または5割が免除されることになりました。詳細は壮年会連合のホームページで規程を参照して下さい。

【献げ方】毎年6月に行われる神学校週間を用いて献金される教会・伝道所が多いと思いますが、年間を通して神学校献金を献げているところも増えていきます。全国壮年会連合は本活動を積極的に推進していますので、壮年の皆さまにはぜひ教会の皆さんに働きかけていただき、教会全体の業となっていくことを期待しています。「壮年会連合ニュース」などで、各地方連合での壮年の働きを紹介しています。